

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4771400035		
法人名	有限会社ほしくぼ		
事業所名	グループホームほしくぼ		
所在地	今帰仁村字湧川1578-3		
自己評価作成日	平成26年5月30日	評価結果市町村受理日	平成26年8月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kihontrue&Jizvsvocd=4771400035-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成26年6月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は今帰仁村の豊かな自然に囲まれたのどかな環境にあります。建物内は木の暖かさがあり、落ち着いた雰囲気があります。
医療面では村の診療所と連携し本人家族が希望した場合ホームでの終末ケア、看取りの支援を実施している。
近隣の農家や地域住民が野菜などを差し入れたり、また地域の福祉祭りには入居者の作品を展示させてもらったり、地元の豊年祭の参加等地域とのかかわりを持ちながら住み慣れたところで人生を最後まで生き生きと過ごせるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域とともに防災訓練等に取り組み、診療所と連携して日常的な健康管理や看取りを実施している。利用者担当制を導入し、職員は利用者の意向等を細やかに把握しており、利用者の希望で買い物に出かけたり外出したりしている。また、事業所での利用者の活動の様子がわかるように、写真を載せた個別の利用者家族宛「お知らせ」を発送している。理念の見直しにあたっては、ミーティングでグループワークを通して全職員に意見を求め、職員は利用者の意見も聞き、利用者との意向が反映された理念が作成された。自己評価は全職員が分担して実施し、前回の改善計画は全て達成されている。また、元職員がボランティアで定期的に散髪訪問して利用者との関係を継続している。事業所としては成年後見制度の活用を推奨しており、現在活用中の利用者がいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日：平成26年8月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者に安心と満足」「地域の一員として」「愛といきがいのある職場」3つを理念に、ホームの目につく場所に掲げ職員全員に共有できるようにしている。またミーティング時に理念の振り返りを行い、理念に沿ったサービスを目指している。	理念の見直しにあたって、職員はグループワークを実施し、職員と利用者双方の意向が反映された理念が作成されている。理念は家族にも説明され、玄関に掲示している。職員は理念に準じて利用者の満足が得られるよう、能力に応じた支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元区長が運営推進会議メンバーにおり地域の情報を提供してもらったり、近隣の住民が野菜を届けてもらったりと交流を持っている。また村の健康祭りに計画から参加し、ホームのブースを設け施設の紹介、作品の展示をしたりと地域の交流を図っている。	「地域の一員として」を理念の柱とし、地域の健康祭りや豊年祭等に利用者と職員が参加している。近隣住民から日常的に野菜等の差し入れがあり、事業所の十周年行事等に老人会や地域住民の参加もある。看護師が公民館での健康診断にボランティアで参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流はあるが、認知症の人の理解や支援の方法を地域の人に向けて発信するには至っていない。今後は認知症の人の理解や支援のあり方を地域の人々に活かせる方法を模索していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開かれる運営推進会議で日々の活動状況、入居者の情報を報告するとともに事故報告等質問やアドバイスをもらいケアの中に活かしている。	会議は同一敷地内グループホームと合同で年6回開催し、理念も話し合っている。委員の提案で夜間訓練を実施し、参加した委員から外灯や外ベル設置の意見等が出ている。インフルエンザ感染情報等も委員から得られ、管理者は会議で利用者の意見も引き出す努力をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議メンバーに役場職員が2名おり会議を通しホームの情報を報告している。また村主催の地域ケア会議に参加し困難事例等のケアのあり方について学んでいる。	行政担当者と地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しており、毎回の会議終了後や電話等で行政担当者と情報交換している。毎月の地域ケア会議には管理者とケアマネ、介護職員が参加し、地域包括支援センター職員からケアについてのアドバイス等を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時の勉強会等で全スタッフが身体拘束を正しく理解し拘束のない支援をしている。夜間は防犯のため施錠している。	身体拘束について、管理者が資料を準備して毎年勉強会を実施している。職員はグループワークを通して学び、言葉による抑制も含めて互いに注意しあえる関係がある。身体拘束についての理念と基本方針は事業所内に掲示され、契約時以外にも家族に説明されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティングでの勉強会や法令遵守を通し、虐待防止の徹底に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングでの勉強会や法令遵守を通し権利擁護に関する制度の理解と活用を学ぶと共に実際に入居者が制度を利用している人がおるため、理解しやすい環境といえる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約前には重要事項説明書を提示説明し疑問がないか尋ね理解を得た上で利用契約書をもっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にホームでの生活を伝え意見や要望を聞くように努めている。ホームに意見箱の設置しているまた、ホームに苦情を言いにくい時などのために第三者の苦情窓口があることを契約時に説明している。	利用者の意見等は、馴染みの関係が築かれている担当職員が把握し、誕生会の贈り物も本人の希望を聞いて準備している。利用者の「読書用の机が欲しい」との希望に机を準備し、毎週教会に通う利用者の家族から出された「正装で参加させて欲しい」という要望にも応じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやその他意見や提案がある場合は随時スタッフとの話し合いを設け意見や提案を聞き反映させている。	職員の意見は日頃から聞いている。グループワークの実施で、意見を出しやすくなったとの職員の声がかかれた。職員の提案で、利用者の席替えを実施し、グッピーの餌やり役を利用者に担ってもらい、靴底の減り具合が気になる利用者には誕生日に靴のプレゼントを実施した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間の要望は個々により違うためなるべく要望に沿えるようにしている。また、それぞれの得意とする分野が活かせるように役割をもたせている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH連絡会主催の研修等、またミーティング時に認知症や権利擁護等の事例をあげ職員に考えさせられる機会をもうけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接するグループホームとの交流は毎日のようにある。また合同行事を行うことで互いに良い刺激になっている。また、介護相談員主催の沖縄全土の介護者との交流会やグループホーム連絡会等の交流もある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人がなにをしたいのか等、不安な表情をしている時、声かけをして本人の思いや話を聞いて不安を取り除き信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と本人の生活歴や関係性等を聞いて、これからどのように過ごしていきたいかを話し合い、家族と事業所で支えていけるような関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった場合、本人家族がおかれている状況を把握し何が必要か見極め他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1日の生活で食事の献立等お互いに話し合ったり調理したり、同じ目的のために作業したりしている。また職員と一緒に季節に応じた野菜を植え収穫し食すことで関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や、気づきの情報を面会時や電話などで伝えている。誕生日や生年祝いなどは家族と一緒に協力しお祝いなどをし、共に良い関係づくりが出来るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎週日曜日信仰している宗教の、集会に行く方がおり、教会の方と協力しその習慣を継続している。また、その方の馴染みの場所へドライブに行ったり、宇の豊年祭などに参加し、馴染みの場所や人が途切れないように支援している。	利用者の好きなことや好きな場所等は、担当職員が把握しており、地域行事等に利用者と共に参加している。散髪ボランティアで来所した元職員が利用者に声かけすることもある。ドライブがてら利用者の畑に行き、一緒に野菜等を収穫し、その後事業所で披露し調理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談にのり、利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となり支援している。又、入所前からの顔なじみで「キク」「ノリ」とお互い呼び合い、何かと声を掛け合い支えあっている。職員は席の調整をしたり、関係が継続できるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した後であっても家族と連絡を取ったり、行事に招待したり、関係が継続できるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の何気ない言葉・行動など、コミュニケーションを通じ1人1人の希望・意向・思いをくみ取れるように努めている。意思疎通が困難な方は、その方の表情や今までの生活史・習慣から出来るだけ本人本位になれるよう努めている	利用者の思い等は契約時に本人や家族に聞き、本人の意向に沿って介護計画を作成・検討している。行事や祭り等でビールを飲むことを楽しみにしている利用者もいる。スポーツが好きな利用者には、ワールドカップ等のテレビ観戦を音量等に配慮しながら24時間認めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人・家族より聞き取りを行っている。入所前にサービス利用していた方等は、以前の担当のケアマネージャーより聞き取りを行い把握に努める。入所後は、会話や言動の中から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの1日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の1日の過ごし方を、今までの生活習慣等や、「出来る事」を見極め、暮らしの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いを聞き、家族の意向・希望が計画に反映できるように作成に努めている。担当職員とケアマネでアセスメント、モニタリングを実施し、現状に即した介護計画の作成に努めている。	介護計画は担当職員とケアマネで話し合い、担当者会議に本人と家族も参加して検討している。計画は本人のニーズに沿った目標を設定し、個別の支援内容になっている。モニタリングを3カ月毎に実施して計画を見直し、利用者の状態変化時は随時の見直しもやっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに添ったケアの内容や、本人の言動、ADL状況などを日々記録。職員間で情報の共有を図り、統一したケアが図れる様に、計画の見直しに反映できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型通所介護利用から、家族の介護困難から入所へ変更したり等 その時の本人及び家族の状況に合わせその時に必要な支援が受けられるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや慰問、地域の大学の実習の受け入れを実施し、入居者が地域の方と触れ合う事が出来るように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元の診療所から、月2回訪問診療を受けている。地元である為、入所前から受診し顔見知りの関係。専門医や長年通っている方は、そのまま通院できるように支援を行っている。家族が通院できない場合は、送迎と一緒に受診し、適切な医療が受けられるように支援している。	殆どの利用者が地元の診療所を利用し、県立や医師会病院も含めて医師が月4回(1人2回ずつ)訪問診療を行い全員の状態を確認し、カルテの情報も職員と共有している。他科受診は家族が同行するが、職員が同行する場合は口頭で家族に状態を説明している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察の中で、普段と様子が違う、バイタルサイン、入浴時の皮膚の観察等 普段のかかわり等でとらえた気づきは、速やかに施設の看護師に連絡し、早めに適切な対応ができるように連携を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員、関係者、家族と細目に連絡を取り合い、早めに退院できるように努めている。入退院時以外にも、近隣の病院の相談室へ、顔を出し関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を作成、入所時に説明、重度化した場合にどうしたいか、本人・家族の意向を確認している。状態に変化がある場合は、細目に家族と連絡を取り合い、変化する家族の思いに対応できるように、都度どうしたいか確認している。看取りを希望する方に関しては、かかりつけ医と連携し、事業所内で終末ケア・看取りを実施している	事業所としての看取りの方針に添って、医師を中心に家族とも繰り返し段階的な話し合いを行いながら対応している。最期は、利用者も含めて全員で玄関から見送り、その都度看取り介護終了後のカンファレンスを開催して、ケアの振り返りと今後への取組みに活かしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で開催されている、普通救命講習を職員は受講している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通報装置・スプリンクラーを設置している。年に2回消防の立ち会いの元夜間想定消防訓練を実施している。前回は実際に夜間に実施し災害対策に努めている。また、区長さんや近隣の方も火災通報装置に登録してもらい、協力していただく体制を作っている。	2回の消防訓練のうち、1回は区長や近隣2世帯にも協力を依頼してマニュアルに添った夜間訓練を実施した。スプリンクラーを設置し、通報装置には近隣の住人や職員が登録され、協力体制も取られている。備蓄は1キロ先の事務所に非常用食料等を準備し、災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ時の声かけでは「足動かしてみよう」等周囲には分らないよう声かけし排泄の支援を実施。ミーティング時に、プライバシーに関し職員間での認識の共有をし、利用者1人1人を尊重し、誇りや、プライバシーを損ねない様な支援を行えるよう努めている	理念に謳われている「尊厳あるケア」を心がけ、利用者への言葉使いや対応が気になる職員は、主任を中心に指導し、勉強会等も開催している。入浴の際に、扉を開けたままカーテンだけ閉めて介助する時も時折あるので、注意を促している。	利用者の尊重とプライバシーの確保については、言葉使いや対応はもちろんのこと、入浴や排せつ時等の尊厳あるケアの徹底が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事やおやつ、飲み物など意識的に希望を伺い本人に選択し、決定していただけるように働きかけている。また常に声かけし、様々な場面で自己決定できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「毎日入浴したい」「午前中はゆっくりしたい」等出来るだけ利用者の希望に添って過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や更衣時には、本人に洋服を選んで頂く。自分での選択が難しい方も、一緒に選ぶ。その人のももとの習慣でスカーフを巻いたり、ヘアターバン、外出時に背広を着る方などいる為、その人らしい身だしなみ出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	近隣からの野菜の差し入れ・季節の野菜や、ほしくぼ菜園で皆で育てた野菜を収穫し、調理法などを皆で相談しながら食事を摂っている。野菜の皮むきやつくろい、盛り付け等出来る事を支援している。食事は、利用者と同じ物を、同じテーブルを囲み、皆で食べている。	職員が調理する側で男女数人の利用者が談笑しながら、事業所の庭や利用者の畑から収穫した野菜を下さげしている。モウウイのインプシーやみそ汁等地元の食材を活かした料理が食卓に並び、職員も一緒に食べている。おやつに好物のブドウパンを毎日食べている利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を把握・記録し必要な量が取れているか確認。月1回の体重測定で増減なども把握し、必要時は主治医へ相談している。自分で摂取できる人はペットボトルに入れ持ち運びいつでも飲んで頂けるように支援している。テーブルには水差しや急須を置きいつでも飲めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、その人の力に合わせ、声かけ、見守り、洗浄の支援を行っている。入れ歯の方は週3回ポリドントにつけ清潔保持に努めている。又無料歯科チェックや歯科受診など行いながら口腔内の健康・清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎やその方に合った時間等、排泄パターンを排泄チェック表を利用し、職員間で把握しトイレでの排泄を支援している。昼間は布パンツ使用。トイレの声かけで拒否する方には、「散歩してみましょう」等その方にあった声かけをしている。	基本的に同性介助を心がけ、昼間は全員が布パンツを使用し、夜間もポータブル使用の2人以外はトイレへ誘導して、排泄の自立に取り組んでいる。利用者の排泄記録表はトイレ近くの廊下の壁にかけられているが、プライバシーに配慮して必要時以外は裏面の絵画にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を食事に多く取り入れ、ヨーグルトや牛乳等の乳製品などもほぼ毎日取れるように支援。朝の散歩も習慣にし、体操など運動を取り入れ便秘の予防に努めている。排便状況も把握に努め、便秘時には、すぐに対応できるように職員間で情報の共有を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は週3回であるが、希望であれば毎日でも入浴を行えるように支援している。時間帯も出来るだけ、本人の希望に添えるように支援している。寒い時期などは、「湯船」も用意入浴剤等も使用し、入浴を楽しみに出来るように努めている。入浴を拒む方などには、足浴や清拭などで清潔を保持している。	同性介助を基本とし、羞恥心に配慮して、着替えもバスタオルで身体を隠しながら行っている。冬場には浴槽を5～6人が利用し、着替えの衣服は自分自身で準備する利用者も多い。入浴を拒否する場合は強制せず、清拭や足浴など工夫して支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩や体操、日光浴など活動行い夜間には、眠れるように支援。高齢な方や健康状態に留意しながら、その時々で休息を取って頂く。本人の希望に添いながら電気なども調整し、睡眠がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に応じた、薬の管理を看護師にて実施。介護職員が、投与。分からない事などあれば看護師へ確認、体調の変化があれば報告し観察。内服に変更があった場合も、日誌などに記録 情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じて、菜園の手入れ・散歩・歌・談笑・コーヒータイム・新聞・小説を読むなど、一人ひとりの役割や楽しみ、を支援できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	朝は、菜園の観察、季節の花を見ながらホームの周囲を入居者・職員で散歩している。又、「自宅に荷物を取りに行きたい」「買い物に行きたい」等希望時に個別での外出の支援。 週1回のミニドライブや、東村つつじ見学や桜見学、外食など行事を計画し普段いけない場所への支援を実施している。	2週間に1回は皆で行き先を決め、仕出し屋の弁当を持参してドライブし、1年に1回は外食をしている。個別に、教会へ行ったり、自宅菜園に野菜を取りに行ったり、月2回は仏壇を拝みに行ったり、自宅に衣替えのために帰宅する等、個々の希望に応じた支援を心がけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で、通帳・印鑑を持ち、希望時には、銀行でおろし管理されている方がいる。職員は家族と協力しその思いに添えるように支援している。地域のスーパーで好みの日用品等を購入したり等個々の希望・力に応じた支援が出来るように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望により、電話は自由に使用できるようにしている。自分でかける事が難しい方は、ダイヤルする等の手伝いをしつつでも、やり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	身近な野菜、果物、花などを飾り、季節感を採り入れながら、居心地よく過ごせるように工夫している。リビングと台所が同じ空間にある為、調理の音や臭いなどが身近に感じられる。 EMを散布し、臭いなどにも留意しながら居心地の良い空間作りを心がけている。	室内の壁は木材で設え、廊下に利用者が談笑できるソファを置き、食堂のテーブルには庭の草花や差し入れのスイカ、珍しい野菜等が飾られている。窓から見える庭の緑が季節感を感じさせる。地域の大学から無償で提供されるEM菌で清掃等を行い、臭いも無く清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士でくつろいだり、いつでも自由に思い思いに過ごせるように廊下には数か所に椅子を置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、使い慣れた寝具や時計、家族の写真などを飾り、自分の信仰する宗教の関係のものを置くなど 本人が安心して居心地よく過ごせるように工夫している。	読書が好きな利用者の要望で机を準備し、電気スタンドは利用者と一緒に選び、家族に本を持参してもらう等、居心地良く過ごせる配慮をしている。窓は厚手のカーテンのみのため、日中は開けっ放しにすることが多く、西日が直接当たるので、外からの視線も気になる。	他の利用者にも家族と連携して馴染みの物を活かした居室作りを工夫させ、落ち着いた暮らせる生活が継続できるように、支援することを期待したい。プライバシーへの配慮と西日対策への取組みに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内、トイレなどには手すり等を取り付け、「出来る事」の支援が出来るようにしている。 1人ひとりの「わかること」など力を見極め、必要な目印や物の配置に留意している。		